

クリスマス特集 すべての人を照らすまことの光

初等部
Elementary School



イエス様のように

初等部6年 江口 悠太

「すべての人を照らすまことの光」このテーマにぴったりの聖句を見つけました。それは、スクールモットーのマタイによる福音書5章13節から16節「地の塩、世の光」です。1年生のころから「サーバントリーダーになりましょう。」と言わせてきました。そして、6年生になり、よくこの聖句を思い出すことが増えました。その理由の一つが、1年生とのパートナー関係です。なぜなら、サーバントリーダーと一緒に、自分のことが出来なければ、1年生のお手伝いをしたり、遊んだりすることは出来ないからです。この聖句を思い出す度に、いつか自分もイエス様のように他の人々を照らしたいと感じます。

今年のクリスマスは、ただ喜ぶだけではなくて、ぼくはまわりを照らせる人になりたいと願いながら、イエス様のお誕生日を心からお祝いしたいです。イエス様の御言葉で、今ぼくの心が自分だけではなく、周りの人に向けられています。クリスマスこそ「地の塩、世の光」です。



アドヴェントの愉しみ

初等部教諭 佐々木 淳

私には、主のご降誕を祝うクリスマスを迎えるための準備の季節であるアドヴェントを過ごす時に大切にしている3つの愉しみがある。まずクリスマスカードである。以前、担任をしていた時は自作のクリスマスカードを用意して初等部のクリスマス讃美礼拝の日に子どもたちに贈っていたが、ここ数年担任を外れていたので教え子で絵本作家として活躍されている吉田瑠美氏(初等部～本学短期大学卒)にお願いして降誕の場面を描いたすばらしいクリスマスカードを作成していただくようになった。年々のクリスマスカードを飾るひとときが憩いのひとときとなっている。

二つ目はクリスマスベルの飾りつけである。40数年前から購入している8センチほどの年号の入った陶器のベルも毎年一つずつ増え、飾りながらその年のことを思い出すのが家族の恒例の時間となっている。

三つ目の愉しみはネクタイである。クリスマスをテーマにしたネクタイを探しているうちに本数も増え、点火祭の日はクリスマスツリーの柄、讃美礼拝の日はリースの柄とクリスマスに思いを馳せながらネクタイを装うのもアドヴェントを過ごす愉しみの一つになっている。

しかし、学期末の慌ただしさの中で毎年アドヴェントを過ごしているが、忙しさの中にも主のご降誕を迎える準備が着々と進んでいく初等部の生活の中で本当の主のご降誕の喜びとは何なのかを考えながら過ごすことが、3つの愉しみより自分にとって何より大切な時間であると思う。